

家庭でしつけよう

新入学(園)児の交通安全

三月——もうすぐ新学期です。

新入学(園)児をお持ちのご家庭では、期待に胸をふくらませながら、何かと準備にお忙しいことでしょう。

入学準備のなかで、忘れてならないのがお子さんに対する交通安全教育です。これまで比較的、家の近くで遊んでいた子供たちも、通学(園)するようになる

子供は、大人には考えられないような行動に出ることがよくあります。交通事故から子供の生命を守るには、子供特有の行動パターンを理解することが大切です。

一般的な子供の行動特性としては、次のようなことがあげられます。

一応の交通ルールは理解できても、応用動作がでないことが多い

いつもの通学路では信号をきちんと守り、横断歩道を正しく渡れても、別の道路ではそれができないことが多い。

と、行動範囲がグンと広がります。行き

帰りはもとより、新しい友達の家遊びに行ったり……ここで気をつけなければならぬのが交通事故です。

お子さんへの交通安全教育は、家庭での「しつけ」の一つとして、ぜひ実行してください。お子さんを交通事故から守るために——。



手をあげるとクルマは必ず止まってくれる——と

いったように物事を単純にしか理解できないところがある

車は急に止まれません。手をあげて道路を渡るように教えると、子供は「手をあげれば車はすべて止まってくれる」と単純に思い込みがちになります。

子供が正しく理解できるように、教え方にも注意を払いましょう。

一つのことにも夢中になると周囲のことが目に入らなくなる



お母さんが道路の反対側にいるのを見ついたり、遊んでいたボールなどが車道にころがっていったりすると、車の通るのも忘れて走り出してしまふことがあります。

「危ないよ」「注意してね」といった抽象的な言葉ではよく理解できない



「飛び出し」はなぜ危ないか、止まっている自動車の下や後ろで遊ぶのがどうして危険なのか、言葉で注意するだけでなく、具体的に「現場」で教えましょう。

よしあしにわからず、大人や年上の子のマネをする



大人が、黄信号なのに走って渡ったりすると、子供はマネをします。

大人のルール違反は子供の交通安全のしつけに良くない影響を与えます。

3月1日～4月30日

『日光春の三大祭り展』

日光東照宮武者行列の装束、日光山輪王寺強飯式人形、日光二荒山神社弥生祭本家体部分、三大祭りのポスター、写真などが展示されています。

日光郷土センター 郷土資料室

今月の市民ギャラリー

○防火ボスターコンクール展
三月五日(木)～十日(火)

○ヒロビ絵画展
三月二十六日(木)～三十一日(火)